

秋田労働局労働基準部健康安全課発表
令和6年6月18日

【照会先】
秋田労働局労働基準部健康安全課
課長 北林 浩之
安全専門官 山谷 博樹
(電話)018-862-6683

報道関係者 各位



令和6年度全国安全週間における建設現場 合同パトロールの実施について ～7月は「建設業における災害防止集中取組月間」です～



秋田労働局（局長 山本博之）は、令和6年度全国安全週間における秋田労働局及び建設業労働災害防止協会秋田県支部の建設現場合同パトロールを下記により実施します。

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」の基本理念の下、「産業界での自主的な労働災害防止活動を推進し、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられています。

97回目を迎える本年は、

「危険に気付くあなたの日 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」
をスローガンに、7月1日から7日まで実施されます。

秋田県内の令和5年における休業4日以上労働災害による死傷者数（以下「死傷者数」という。）は1,177人（新型コロナウイルス感染症のり患者を除く。）となり、令和4年（以下「前年」という。）と比較して22人（1.9%）の増加となりました。

また、労働災害による死亡者数（死傷者数の内数。以下同じ。）は14人で、前年と同数となり、2年連続で2桁の人数となりました。

このうち建設業の死傷者数は221人（前年比1.8%減）となり、そのうち、死亡者数は5人（前年比3人減）で、内訳として「飛来・落下」が2人、「熱中症」が2人、「交通事故」が1人となりました。

このような状況を踏まえ、今年度も全国安全週間中の取組として、秋田労働局及び建設業労働災害防止協会秋田県支部による建設現場合同パトロールを下記のとおり実施することといたしました。

パトロールでは、秋田労働局長を陣頭に、現場における安全対策や安全管理活動の状況を確認し、「安全意識の高揚」を訴えることとしています。

また、気温や湿度が高くなるこの時期は、熱中症の発症リスクが高まることから、熱中症の予防についても呼びかけることとしています。

報道機関の皆様におかれましては、職場の安全意識が広く県民に浸透されるよう、秋田労働局長が実施する建設現場の合同パトロールについて、取材・報道をお願いいたし

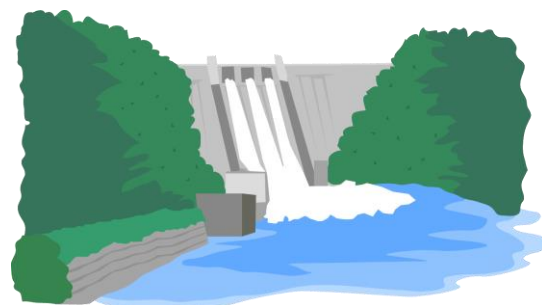
ます。

なお、秋田労働局では7月を「建設業における災害防止集中取組月間」と定め、県内の各労働基準監督署において、管内の木造家屋建築工事現場を中心に集中的な監督指導等を実施することとしています。

記

《合同パトロール》

- 1 日 時 令和6年7月2日（火）午前11時00分～午後3時10分
- 2 場 所 雄勝郡東成瀬村椿川字立石30-1（工事事務所・集合場所）
（パトロール現場 所在地：雄勝郡東成瀬村椿川地内）
- 3 施 工 者 鹿島・前田・竹中土木特定建設工事共同企業体
- 4 工 事 名 成瀬ダム堤体打設工事（第2期）
（発注者：国土交通省 東北地方整備局 成瀬ダム工事事務所）
- 5 工事概要 本体基礎掘削工：約322万m³、CSG打設：約431万m³、コンクリート打設：約60万m³、基礎処理工：約7万m、法面工：1式、管理設備設置工：1式、閉塞工：1式、濁水処理設備運転工：1式、雑工事：1式、仮設工：1式
- 6 ダム諸元 型式：台形CSGダム、堤高：114.5m、堤頂長（最高地点の長さ）：755.0m、堤体積：485万m³、湛水面積：2.26km²、貯水量：7,850万m³
（工期：平成30年5月9日～令和8年12月11日）



7 パトロール実施者

秋田労働局長ほか職員及び建設業労働災害防止協会秋田県支部役職員 計13名

8 取材申込み等について

- (1) 6月27日（木）までに秋田労働局健康安全課（018-862-6683）へご連絡ください。
- (2) 当日は、原則として工事事務所前（雄勝郡東成瀬村椿川字立石30-1）に午前10時50分までにお越し下さい。^{（注1）}（別添1「工事事務所案内図」参照）。その後、担当者が事務所内（会議室）にご案内します。なお、駐車場は当該事務所前にあります。

- (3) 午前 11 時から会議室において、挨拶及び工事概要等について説明を行った後、参加者はその場で昼食をとります。パトロール現場には、工事事務所前から午後 0 時 15 分にバスで向かいます。

報道機関の皆様は、工事事務所近辺において、適宜、昼食をとっていただき、午後 0 時 15 分出発のバスに同乗していただくことを原則としています。(注2)

なお、事前に各自ご準備いただいた昼食を会議室で食べていただいても構いません。

- (4) 当日は、パトロール現場に向かう途中、見学台において 10 分程度、現場の状況を見ながら、全体の工事概要について説明する予定です。

よって、午前中に予定している上記(2)の工事事務所での現場説明等への参加につきましては、報道機関の皆様の判断にお任せします。

- (5) 当日は、ヘルメット、ゴム長靴等を各自ご持参願います。

なお、危険箇所には立ち入らない予定ですが、現場での取材に当たっては、担当者の案内に従っていただきますようお願いします。



- (注 1) パトロール現場へ向かうバスの出発時刻の 10 分前に当たる午後 0 時 5 分からの参加でも構いません。(上記(4)のとおり。)

- (注 2) パトロール現場に向かう際、機材の持込み等の都合により、バスに同乗することが困難な場合は、事前に秋田労働局健康安全課(018-862-6683)までご連絡願います。



【添付】

- 別添 1 成瀬ダム堤体打設 JV 工事事務所 案内図
別添 2 第 97 回 全国安全週間 リーフレット



令和 6 年度 秋田労働局・建設業労働災害防止協会秋田県支部 合同パトロール 案内図
 工事名：成瀬ダム堤体打設工事（第 2 期）（鹿島・前田・竹中土木 J V 施工）
 集合場所：雄勝郡東成瀬村椿川字立石 30-1（工事事務所）
 集合時刻：午前 10 時 50 分 ただし、午後 0 時 5 分でも可（Press Release 記載のとおり。）



全国安全週間

期間 令和6年7月1日(月)～7日(日)

準備期間:令和6年6月1日(土)～30日(日)

スローガン

危険に気付くあなたの目
そして摘み取る危険の芽
みんなで築く職場の安全



今年で97回目を迎える全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という基本理念の下、労働災害を防止するために産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を目的として実施されてきました。

これまで、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少しておりますが、令和5年の労働災害については、死亡災害は前年を下回る見込みであるものの、休業4日以上死傷災害は前年を上回る見込みであり、増加傾向に歯止めがかからない状況となっています。

特に、転倒や腰痛といった労働者の作業行動に起因する死傷災害が増加し続けており、死亡災害については墜落・転落などによる災害が依然として後を絶たない状況にあります。

また、労働災害を少しでも減らし、労働者一人一人が安全に働くことができる職場環境を築くためには、令和5年3月に策定された第14次労働災害防止計画に基づく施策を着実に推進することが必要であり、計画年次2年目となる令和6年度においても、労使一丸となった取組が求められます。

そのため、令和6年度は、「危険に気付くあなたの目 そして摘み取る危険の芽 みんなで築く職場の安全」のスローガンの下、全国安全週間を実施することとしました。



主唱 厚生労働省、中央労働災害防止協会
協賛 建設業労働災害防止協会、
陸上貨物運送事業労働災害防止協会
港湾貨物運送事業労働災害防止協会、
林業・木材製造業労働災害防止協会



実施者の実施事項

1 安全衛生活動の推進

- 安全衛生管理体制の確立**
 - ア 年間を通じた安全衛生計画の策定、安全衛生規程及び安全作業マニュアルの整備
 - イ 経営トップによる統括管理、安全管理者等の選任
 - ウ 安全衛生委員会の設置及び労働者の参画を通じた活動の活性化
 - エ 労働安全衛生マネジメントシステムの導入等によるPDCAサイクルの確立
- 安全衛生教育計画の樹立と効果的な安全衛生教育の実施等**
 - ア 経営トップから第一線の現場労働者までの階層別の安全衛生教育の実施、特に、雇入れ時教育の徹底及び未熟練労働者に対する教育の実施
 - イ 就業制限業務、作業主任者を選任すべき業務での有資格者の充足
 - ウ 災害事例、安全作業マニュアルを活用した教育内容の充実
 - エ 労働者の安全作業マニュアルの遵守状況の確認
- 自主的な安全衛生活動の促進**
 - ア 発生した労働災害の分析及び再発防止対策の徹底
 - イ 職場巡視、4S活動(整理、整頓、清掃、清潔)、KY(危険予知)活動、ヒヤリ・ハット事例の共有等の日常的な安全活動の充実・活性化
- リスクアセスメントの実施**
 - ア リスクアセスメントによる機械設備等の安全化、作業方法の改善
 - イ SDS(安全データシート)等により把握した危険有害性情報に基づく化学物質のリスクアセスメント及びその結果に基づく措置の推進
- その他の取組**
 - ア 安全に係る知識や労働災害防止のノウハウの着実な継承
 - イ 外部の専門機関、労働安全コンサルタントを活用した安全衛生水準の向上
 - ウ 「テレワークの適切な導入及び実施の推進のためのガイドライン」に基づく、安全衛生に配慮したテレワークの実施

2 業種の特性に応じた労働災害防止対策

- 小売業、社会福祉施設、飲食店等の第三次産業における労働災害防止対策**
 - ア 全社的な労働災害の発生状況の把握、分析
 - イ 経営トップが先頭に立つて行う安全衛生方針の作成、周知
 - ウ 職場巡視、4S活動(整理、整頓、清掃、清潔)、KY(危険予知)活動、ヒヤリ・ハット事例の共有等の日常的な安全活動の充実・活性化
 - エ 安全衛生担当者の配置、安全意識の啓発
 - オ パート・アルバイトの労働者への安全衛生教育の徹底
- 陸上貨物運送事業における労働災害防止対策**
 - ア 荷台等からの墜落・転落防止対策、保護帽の着用
 - イ 荷主等の管理施設におけるプラットフォームの整備、床の凹凸の解消、照度の確保、湿気の緩和等、荷役作業の安全ガイドラインに基づく措置の推進
 - ウ 積み卸しに配慮した積付け等による荷崩れ防止対策の実施
 - エ 歩行者立入禁止エリアの設定等によるフォークリフト使用時の労働災害防止対策の実施
 - オ トラックの逸走防止措置の実施
 - カ トラック後退時の後方確認、立入制限の実施
- 建設業における労働災害防止対策**
 - ア 一般的事項
 - (ア) 「木造家屋等低層住宅建築工事墜落防止標準マニュアル」に基づく足場、屋根・屋上等の端・開口部、はしご・脚立等からの墜落・転落防止対策の実施、フルハーネス型墜落制止用器具の適切な使用
 - (イ) 足場の点検の確実な実施、本足場の原則使用、改正「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく手すり先行工法の積極的な採用
 - (ウ) 職長、安全衛生責任者等に対する安全衛生教育の実施
 - (エ) 元方事業者による統括安全衛生管理、関係請負人に対する指導の実施
 - (オ) 建設工事の請負契約における適切な安全衛生経費の確保
 - (カ) 輻輳工事における適正な施工計画、作業計画の作成及びこれらに基づく工事の安全な実施
 - (キ) 一定の工事エリア内で複数の工事が近接・密集して実施される場合、発注者及び近接工事の元方事業者による工事エリア別協議組織の設置
 - イ 改正「山岳トンネル工事の切羽における肌落ち災害防止対策に係るガイドライン」に基づく対策の実施
 - ウ 令和6年能登半島地震の復旧、復興工事におけるがれき処理作業の安全確保、土砂崩壊災害、建設機械災害、墜落・転落災害の防止等、自然災害からの復旧・復興工事における労働災害防止対策の実施
- 製造業における労働災害防止対策**
 - ア 機械の危険部分への覆いの設置等によるはさまれ・巻き込まれ等防止対策の実施
 - イ 機能安全を活用した機械設備安全対策の推進
 - ウ 作業停止権限等の十分な権限を安全担当者に付与する等の安全管理の実施
 - エ 高経年施設・設備の計画的な更新、優先順位を付けた点検・補修等の実施
 - オ 製造業安全対策官民協議会で開発された、多くの事業場で適応できる「リスクアセスメントの共通化手法」の活用等による、自主的なリスクアセスメントの実施
- 林業の労働災害防止対策**
 - ア チェーンソーを用いた伐木及び造材作業における保護具、保護衣等の着用並びに適切な作業方法の実施
 - イ 木材伐出機械等を使用する作業における安全の確保

3 業種横断的な労働災害防止対策

- 労働者の作業行動に起因する労働災害防止対策**
 - ア 作業通路における段差等の解消、通路等の凍結防止措置の推進
 - イ 照度の確保、手すりや滑り止めの設置
 - ウ 「転倒等リスク評価セルフチェック票」を活用した転倒リスクの可視化
 - エ 運動プログラムの導入及び労働者のスポーツの習慣化の推進
 - オ 中高年齢女性を対象とした骨粗しょう症健診の受診勧奨
 - カ 「職場における腰痛予防対策指針」に基づく措置の実施
- 高齢労働者、外国人労働者等に対する労働災害防止対策**
 - ア 「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン(エイジフレンドリーガイドライン)」に基づく措置の実施
 - イ 母国語教材や視聴覚教材の活用等、外国人労働者に理解できる方法による安全衛生教育の実施
 - ウ 派遣労働者、関係請負人を含めた安全管理の徹底や安全活動の活性化
- 交通労働災害防止対策**
 - ア 適正な労働時間管理、走行計画の作成等の走行管理の実施
 - イ 飲酒による運転への影響や睡眠時間の確保等に関する安全衛生教育の実施
 - ウ 災害事例、交通安全情報マップ等を活用した交通安全意識の啓発
 - エ 飲酒、疲労、疾病、睡眠、体調不良の有無等を確認する乗務開始前の点呼の実施
- 熱中症予防対策(STOP!熱中症 クールワークキャンペーン)**
 - ア 暑さ指数(WBGT)の把握とその値に応じた熱中症予防対策の実施
 - イ 作業を管理する者及び労働者に対する教育の実施
 - ウ 熱中症の発症に影響を及ぼすおそれのある疾病を有する者に対して医師等の意見を踏まえた配慮
- 業務請負等他者に作業を行わせる場合の対策**
 - ア 安全衛生経費の確保等、請負人等が安全で衛生的な作業を遂行するための配慮
 - イ その他請負人等が上記10(1)~10(3)④に掲げる事項を円滑に実施するための配慮

●職場の安全、全国安全週間に関する情報は
こちらでも発信しています!

厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/index.html>



中央労働災害防止協会

<https://www.jisha.or.jp>



職場のあんぜんサイト

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp>



●職場の安全、全国安全週間に関する情報は
こちらでも発信しています!

厚生労働省 安全衛生

検索

中央労働災害防止協会 安全週間

検索

●労働基準監督署等への届出は
電子申請が便利です!

帳票入力支援サービス

検索



詳しくは、最寄りの都道府県労働局または労働基準監督署にご相談ください。

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署